

## 第 26 回海洋工学シンポジウムにおいて研究成果を発表しました(2017/3/6-7)

テーマ：津波数値解析技術、津波複合現象  
 場所：日本大学理工学部駿河台キャンパス 1 号館

3月6日(月)～7日(火)に、第26回海洋工学シンポジウム「人類と海-共生を支えるしくみ-」が開催されました。このシンポジウムは、日本船舶海洋工学会及び日本海洋工学会が主催するもので、昨年まで25回にわたり海洋工学の広範囲な分野の最新情報がワークショップ形式によって報告されてきました。今回は「人類と海-共生を支えるしくみ-」をコアテーマとして、9種類の通常セッションのほかに、8種類のオーガナイズドセッション（OS-気候変動による沿岸域の極端海象、OS-リアルタイム地震・津波・地殻変動観測、OS-津波数値解析技術の現状と課題、OS-海洋再生可能エネルギー開発、OS-海洋再生可能エネルギー施設の影響、OS-海底鉱物資源の調査と開発の現状、OS-海洋音響学と応用技術の研究動向、OS-津波避難建築の計画とデザイン）が開催されました。

当研究所からは、山下啓助教（寄附研究部門）が、「OS-津波数値解析技術の現状と課題（オーガナイザー：嶋原良典講師・防衛大学校）」において、下記の著者・タイトルによる研究成果を発表しました。本研究の背景には、東日本大震災の被害実態の教訓から、津波による浸水被害だけではなく、津波に伴う複合現象の影響を正しく評価することが益々望まれるようになってきた実情があります。そのことを踏まえて、津波氾濫・土砂移動・漂流物移動による複合現象を予測・評価するために、津波統合モデルというシミュレーションモデルを開発しました。そして、開発したシミュレーションモデルを用いて東日本大震災における宮城県気仙沼市の津波複合被害の再現計算を実施し、津波に伴う複合現象の影響を調べたものです。

なお、本研究は、2016年度10月から開始された当研究所における共同研究助成を受けており、研究課題名「津波統合モデル解析の高度化（代表者：高橋智幸教授・関西大学）」の下、関西大学・当研究所など、計8機関13名の参画者によって研究が推進されています。

### 【著者・タイトル】

山下啓,今村文彦ら：津波統合モデルによる津波複合被害の再現シミュレーション—東日本大震災の宮城県気仙沼市で起こった津波に伴う土砂移動と船舶漂流—

※下線：研究所構成員

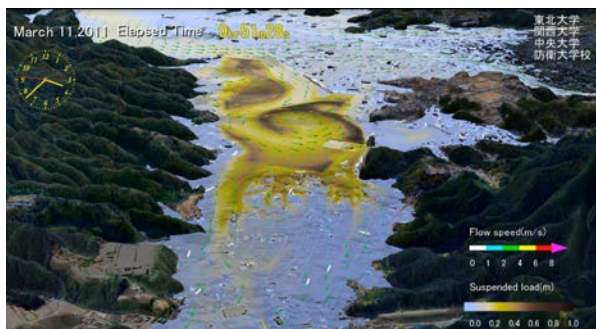


図 津波統合モデルによって再現された、東日本大震災の宮城県気仙沼市の津波氾濫・土砂移動・船舶漂流の様子（巻き上げられた土砂によって濁った津波が市街地に襲来し、船舶（図中の白い物体）が漂流する）

文責：山下啓（寄附研究部門）